

新幹線プレス

2014年11月14日 No.194

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

交番検査周期延伸ありきの走行試験は認められない！

10月30日、「新幹線電車（交番検査）検査周期延伸に向けた試験の実施について」の説明が会社よりありました。これは交番検査の周期延伸を前提にしたものであり、あまりにも唐突なものです。周期延伸は検査体制の見直しや要員削減をも含む安全・労働条件に関わる重大な案件であり、新幹線地本は解明要求を申し入れました。

周期延伸の目的、必要性は何か？

現行の交番検査周期は「30日以内または3万キロ以内」となっていますが、これを「45日以内または6万キロ以内」を目標とするというもので、距離でいうと2倍となります。この数値の根拠については何ら明らかにされていません。会社が言うように周期が延伸されれば、車両の不具合による安全面・サービス面の低下が危惧されます。このようなリスクを承知した上で、あえて検査周期を延伸する目的、必要性はいったい何なのか？会社は誠意ある回答をするべきです。

乗客を乗せた「テストカー」で走行試験？

会社は今回「検査周期延伸に向けて、関係規程を変更した上で…」とし、半年にわたってテストカーでの走行試験を行うとしています。テストカーと言いつつ実際には乗客を乗せた営業列車であり、「入念点検」は電気系統や客室内のサービス関係においては本来の交番検査を大幅に省略したもので、安全面および旅客サービス面が格段に低下することは明らかです。また、「入念点検」の台車検査は通常と同じ検査内容にもかかわらず検査担当者の人数が半減されており、担当者に掛る負担が非常に大きいものとなっています。これでは安全の確保に支障があることが懸念されます。

目的はコスト削減？ これでは安全が脅かされる！！

会社が年度初に示す「実行計画」の中には「低コスト化の推進」というものがあり、今回明らかにした交番検査周期延伸はそれに基づく「コストダウン」を前提としたものに間違いありません。このような安全を担保できないコスト削減は許されるものではありません！ それとも、ここまでコスト削減を追求しなければならない理由があるとすれば、いったいそれは・・・何でしょうか？